

# 京都創造者大賞2018

～創造と交流が生み出す未来～

創始200年を超える京舞井上流の伝統継承と新たな取り組みへの挑戦

大賞に

## 京舞井上流 五世家元 井上 八千代 様

京都府、京都市、本所等で組織する京都創造者大賞顕彰委員会(委員長:本所会頭 立石 義雄)では、京都ブランドのイメージアップや京都の都市格向上に著しく貢献している、又は、今後貢献が大いに期待できる取り組みの担い手を「京都創造者」として、オール京都で表彰しています。この度、12回目となる「京都創造者大賞2018」の受賞者を決定し、9月3日にロームシアター京都において授賞式を開催しました。

京都創造者大賞事務局(本所 産業振興部内)

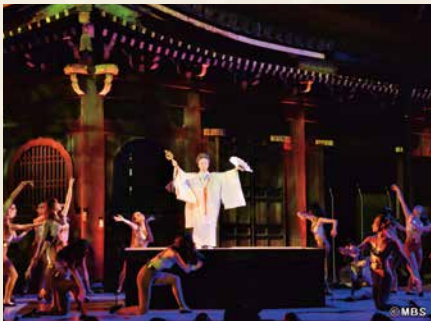
TEL : 075-212-6450 / FAX : 075-255-0428

E-MAIL : taisyo@kyo.or.jp

### 京都創造者大賞

## 井上 八千代 (京舞井上流 五世家元) 様

創始200年を超える京舞井上流の伝統継承と新たな取り組みへの挑戦



クラシック楽曲「ボレロ」による京舞披露(泉涌寺音舞台)



井上 八千代 様



明治5年に創設された「都をどり」

### 講評

江戸後期の創始から200年以上の間、脈々と受け継がれてきた京舞井上流。その舞姿の力強さと美しさを不断の稽古により継承すること、そして後進育成に余念なく取り組むことは、京都の伝統諸芸振興の基軸のひとつをなしている。また、京舞井上流の格を守りつつ、現代の粋を凝らした新たな舞いにも挑戦する姿は、「都をどり」が明治初期に画期的な演出として誕生して以来、様々な趣向を取り入れつつ上演され続けていることにも相通じ、人々の心を惹きつけてやまない。今後も、かけがえない京都の風雅を極めることに精進され、国内外のより広い範囲の人々に感動や創造へのひらめきをもたらされるよう、ますます活躍されることを期待したい。

## 公益社団法人 宇治市観光協会 様

日本初の人工ふ化で誕生したウミウと目指す「放ち鵜飼プロジェクト」



宇治川の鵜飼



澤木鵜匠とウツティ



愛称・イメージキャラクター

平安時代には既に行われていたとされる「宇治川の鵜飼」。その幻想的な風景に、毎年訪れる多くの観光客や市民がいにした想いを馳せ、川の恵みを楽しんでいる。そのような「宇治川の鵜飼」に「ウツティ」たちの活躍という新しい魅力が加わった。数々の試行工夫の末、日本で初めて成功したウミウの人工ふ化や「放ち鵜飼プロジェクト」などの創造的かつ地道な取り組みは、観光振興への貢献とともに、新たな歴史の幕開けを感じさせる。現代人の自然への想いや人と鳥との共生を形にする「放ち鵜飼プロジェクト」をぜひ実現し、地域社会と共に京都・宇治の魅力をさらに高め、伝えて行かれることを期待したい。

講評

## 一般社団法人 KYOTOGRAPHIE 様

文化都市・京都を舞台に京都ならではの特色ある写真祭を開催「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」



両足院(建仁寺内)での展示 中川幸夫 姐上の華  
© Takeshi Asano-KYOTOGRAPHIE 2018



KYOTOGRAPHIE 2018 公式ポスター



京都新聞印刷工場跡での展示 ローレングリーンフィールド GENERATION WEALTH  
© Takeshi Asano-KYOTOGRAPHIE 2018

この写真祭には、言葉の壁を越えて強いメッセージを放つ作品が並び、会期中、京都の街は特別な雰囲気包まれる。2013年の第1回開催以来、その注目度は着実に増し、多くの観客を京都へと引き寄せた。また、観客のみならず、国内外から写真家や関係者が集うことでさまざまな交流を生み出し、新たな価値の創造に貢献するとともに、建築や伝統工芸の素晴らしさ、文化としての先端技術の発見など、京都の多彩な魅力を世界に提示している。引き続き、国際的な表現者としての写真家の誕生・育成につながる事業として、また伝統と革新を繰り返してきたこの地の文化を思いがけない角度から刺激し続ける仕組みとして、さらなる展開を期待したい。

講評

## ガンゼ 株式会社 様

多様な事業展開や新たな交流拠点の創設等により創業の地・綾部の地域振興に貢献



綾部本社



北部産業創造センター



あやべぐんゼスクエア

人間尊重と優良品の生産を基礎として、会社をめぐらすすべての関係者との共存共栄をはかる。——波多野鶴吉氏が掲げたこの「創業の精神」は今も新鮮である。その揺るがぬ精神があつてこそ、倫理性と創意に溢れる取り組みが革新を生み続け、事業が自ずと多様に展開し、世界企業へと成長されたのである。「あやべぐんゼスクエア」の開設や「北部産業創造センター」の開設支援に見られるとおり、現代においても創業の地、綾部への想いと貢献の大きさは計り知れない。京都らしいモノづくり、さらにコトづくりを牽引する企業として、また、地域社会の歴史と文化を創造し続ける事業者として、さらなる飛躍を期待したい。

講評